

洋菓子の道へ 奨学生100人超

19年来、返済不要で専門学校生支援



10月4日、西宮市の同社本社で、25年度の奨学金の認定式典が開かれた。神戸や大阪、京都、東京、宮城などで製菓や料理を学ぶ専門学校生15人が、財団の選考を経て奨学金を受けることが決まった。

学生たちは「奨学金を活用しフランスで学ぼうと思う」「国を超えて愛されるお菓子をにつくりたい」と将来の展望を話した。財団代表理事の蟻田剛毅シュゼットHD社長は

シュゼット財団による専門学校生を対象にした奨学生の認定式＝西宮市久保町、シュゼット・ホールディングス

「アンリ・シャルパンティエ」のシュゼット

「アンリ・シャルパンティエ」などを展開する洋菓子製造販売のシュゼット・ホールディングス（HD、西宮市）が、洋菓子業界を目指す専門学校生を支援する取り組みを続けている。同社が2019年につくった一般財団法人シュゼット財団が、学生に返済不要の奨学金を給付。認定を受けた学生は、今年で累計100人を超えた。（大盛周平）

「自分の技術で人生をまいい進めたい。これから一緒に」

蟻田剛毅社長 一問一答

シュゼット財団代表理事の蟻田剛毅シュゼット・ホールディングス社長に、奨学金制度の狙いや今後の展望について聞いた。

―奨学金制度を始めたきっかけは。

「専門学校に入学する人が減っている聞いた。このままでは業界に入る人の絶対数が減っていくので、なんとかしたいと思った」

―成果は。

「ありがたいことに、当社にも何人か就職してくれた。毎年、卒業の時期に『就職しました』という報告があるのでも、若手層の仕事の確保に少しは貢献できているのかなと思う」

―業界を問わず人手不足が深刻だ。人材獲得に必要なことは。

業界の人手不足 なんとかしたい

食の世界を盛り上げていくためには、シュゼットHDに入社し「と激励した。財団の設立は、製菓学校に入学する若者が減り、業界で人手不足が進むことに蟻田社長が危機感を抱いたのがきっかけという。19年に発足後、毎年15人程度を奨学生に選び、卒業するまで毎月5万円を返済不要で給付してきた。奨学生は25年度で累計100人に。過去の奨学生の中にいけば」と話。

「若手層の仕事の確保に少しは貢献できていると思う」

と蟻田社長。「奨学生の同窓会のようなものをつくるなど、もっと大きな動きにしていければ」と話。

「就職希望者の親御さんから見ると、業界の労働環境の整備がどうなっているのか、という点がすごく重要な点だと思う。うちの会社も作業時間などで職場が働き方の工夫をしている。小さな改善を積み重ね、職場の選択肢の一つとして十分考えられるよね」と思ってもらえる部分を整えていくことが重要だ」

―財団活動の今後は。

「奨学金制度をどう充実させていくか。同窓会みたいなものをつくり、食べ物に関わるネットワークを充実させていきたい。その中から『セントラルキッチン』の工場長をやっています。『製菓のコンクール』に出て賞を取りました」という話を聞くとき盛りに上がる。奨学金制度でお世話になっている専門学校の数も増やし、もっと大きいモーメント（機会）にしていきたい」



あつたこうき 関西学院大学卒業。98年に電通に入社し、在籍中に早稲田大学大学院修士。07年アンリ・シャルパンティエ（現シュゼット・ホールディングス）に入社。10年副社長、11年から現職。兵庫県出身。